

令和5年度第1回旭市子ども・子育て会議議事録(要旨)

1. 開会

【事務局】

本日の会議の公開に関しまして皆様にお諮りいたします。旭市審議会等の会議の公開に関する要綱第3条(会議の公開の原則)によりまして原則公開となっております。本日は特に非公開とすべき議題はございませんので公開したいと思います。がご異議ございませんでしょうか。

(異議なしの声あり)

続いて事務局紹介

委託業者(株)アールピーアイ栃木 紹介

2. 会長あいさつ

大変お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

現行の第2期子ども・子育て支援事業計画は、令和6年度をもって終了となります。本年度と来年度の2年間の調査等を積み上げて、第3期の新しい計画を作っていく予定となっております。計画期間は令和7年度から5年間となります。

本日は、第3期子ども・子育て支援事業計画の策定に向けて、子育て支援に関するニーズを把握するため、市内に在住の就学前及び小学生のお子さんのいる世帯を対象にアンケート調査を実施するという事です。

アンケートの原案をご用意していますので、調査項目、内容について十分ご審議いただきたいと思います。どうぞ忌憚のないご意見をお願いいたします。

今回のニーズ調査の結果がまとまりましたら、新しい計画に生かされることになろうと思います。よろしくお願ひいたします。

3. 議題

【事務局】

それでは、旭市子ども・子育て会議条例第8条第1項の規定により会長が議長とすることですので、ここからは、加瀬会長に進行をお願いします。

【会長】

それでは、しばらくの間、議長を務めさせていただきます。議題の(1)第3期旭市子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査について、事務局より説明をお願いします。

(1)第3期子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査について

【事務局】

(資料1-1～資料1-5、参考資料1-2、参考資料1-3に基づき説明)

【会長】

事務局からの説明が終わりました。何かご質問やご意見はございませんか。

【委員】

アンケート調査票を一通り拝見しまして、何点かお伺いします。

一点目、この調査票を送る際に、宛名のお子さんに対して回答を求めると思いますが、お子さんが複数いる場合は宛名に全員打ち出されるのでしょうか。

二点目、資料1-2就学前児童用の調査票の2ページに用語の説明がありますが、単純にこれを見たときに、掲載されている各種事業が全て市内で実施していると錯覚するのではないかと思います。実施していない事業については、何か表記したほうが良いのではないかと思います。

次に15ページ、「宿泊を伴う一時預かり等の利用について」とありますが、宿泊を伴う民間施設等が実際旭市にあるのでしょうか。

次に20ページの間30-3で「1」とあるが、これはどこを指しているのでしょうか。

27ページに「児童虐待について」という項目があり、これは市独自の設問であると思います。以前からこの形で調査が実施されてきたと思いますが、設問の内容が、周りに虐待されている子がいたか、というような保護者が第三者側の視点での内容になっています。今、自分が勤務しているところで感じていることですが、実際に両親の喧嘩、祖母と母の喧嘩など家族の争いで心を痛めている児童が複数人います。例えば、七夕の短冊に願いごとを書いてもらおうと、「家族が仲良く過ごせますように」と書く児童がいます。虐待とまでは行かなくても「毎日両親が喧嘩して嫌だ」など、子どもの生の声を普段耳にしていると、この設問の中で当事者としての意見に触れても良いのではないかと思います。虐待という認識がなくても、子どもを叩いてしまったことがあるか、夫婦喧嘩をしてしまったことがあるか、お風呂に何日も入れなかったとかネグレクト気味なことがなかったかなど、そのような項目を入れていただくと良いのかなと思います。ニーズ調査の観点からは外れてしまうかもしれませんが、保護者の方への抑止とまではいきませんが、意識付けというか意識改革の一助になるのではないかと思います。

最後に、小学生保護者用の調査票の中で、小学生の高学年等で今メディアでも取り上げられているヤングケアラー、実際市内でそのような児童がいるかわかりませんが、計画の中にも調査票の中にもヤングケアラーに関する項目がなかったなと思いました。ヤングケアラーのことが、第3期の計画に何らかの形で反映されるような設問が考えられるのであれば入れていただければなと思います。

【事務局】

まず一点目、お子さんが複数人いる場合ですが、宛名には一番上のお子さんだけ表記されるようになります。

次に、就学前児童用の調査票、2ページの用語解説ですが、確かに市で実施していない事業もございます。設問の中では記載されているのですが、こちらの用語解説の方も修正させていただきます。

15ページの宿泊を伴う民間施設等についてですが、第2期計画を策定していた頃にはあったのですが、現在旭市内では宿泊を伴う施設はないと思われまので、こちらについても修正させていただきます。

次に、20ページの「1」についてですが、前回のニーズ調査での記載方法のままになってしまっており、今回はチェックを入れていただくように記載方法を変えておりますので、修正させていただきます。

次に27ページの児童虐待についてですが、市の独自項目となっております、担当の方でも「児童虐待」とストレートに記載されていることについて疑問に感じるところもありましたが、やはりご意見にもあったように実際のものというよりは、回答をしていただく方に意識付けをしていくために掲載しているものであると思います。確かに内容としては、当事者としてのものではないので、質問内容について検討させていただきます。

最後にヤングケアラーについてですが、こちらの第3期計画を策定するに当たりまして、子どもの貧困の関係とヤングケアラーの関係について、今回調査できないかと検討しましたが、本計画の基本的な考えが保育の量の見込みについてということになりますので、ご覧いただいた通り就学前の調査票につきましては、29ページとかなり量の多いものとなっております。さらにここから、子どもの貧困やヤングケアラーについての設問を増やすこととなりますと、アンケートとしても量も多くなり時間がかかるものとなってしまいますので、回答がなかなかいただけないのではないかとこの考えもありました。子どもの貧困とヤングケアラーにつきましては、子育て支援課としてもこれから調査の方をどういう形で実施していけば良いかと考えているところであります。今回のニーズ調査とは別に検討していくこととなると思います。

【委員】

資料1-2就学前児童用の調査票の10ページに、②子育て支援センターおひさまと記載されています。これが本当の名前なのですが、これだとこの施設かわからないので、サンライズベビーホームと修正していただけたらと思います。

あと、このアンケートは項目が多くて保護者の方もとても大変だと思います。皆さん、お子さんのために一生懸命取り組んでくださると思うのですが、文章が多くて読むのも大変ですので、参考資料の設問一覧のような、もっとすっきりしたシンプルなものにできないでしょうか。

最後に小学生のお子さんへのアンケートがありました。保育園は仕方がないとしても、学童についてなど、お子さんがどう思っているのかと考えたりします。自分が小さい時は里山に住んでいましたので、宿題もなく一人で山の中で遊んだりしていました。ずっと同じ学校にいて、宿題もやって、遊んだりする時間もあるのですが、内容を詳しく知らずにこのようなことを発言するのはいかがかと思いますが、不登校が増えているのもずっと同じ場所に居過ぎるのではないかと思うこともあります。

難しいとは思いますが、例えばこの辺は農業地域ですから、菜園をやって自分で野菜を育てて家に持ち帰るとか、送迎の問題もありますが釣り場に行くとか、発明クラブとかもあります。そういう日常に近いもの、おじいちゃんおばあちゃんに見てもらえる感覚になるようなものがあるのも良いのかなと思います。学童でも楽しく工夫していただいているかもしれませんが、そのように思いました。

保育園は、もう何十年もやっていて、研究がある意味され尽くして、子どもたちをどうやって育てていけば良いか、先生と保護者の皆さんとどうやって共有していけば良いか、ということは割と研究されているのですが、学童の方はどうなのかと考えまして、子どもたちの気持ちはどうなのか。もう学校へ行きたくなくなってしまうのではないかと思ったりしています。

【事務局】

一点目、就学前の調査票10ページの支援センターにつきましては、大変失礼いたしました。こちらは修正させていただきたいと思います。

次にアンケート項目がとても多いということですが、確かにページ数が多いのですが、保育の量の見込みの考え方は国の方で決まっている設問が多いということもありまして、どうしてもページ数が絞り切れない状態です。付け加えまして、市の方の独自設問もかなりの量がございます。こちらにつきましては、前回の第2期のニーズ調査の際の設問を踏襲した内容になっております。第2期にアンケートでいただいた回答と比較をする対象として、今回も同じ設問を載せております。大変量が多いものなので、回答していただくのも負担になるかと思いますが、できましたら比較の対象として答えを出させていただくためをお願いしたいところであります。

追加案の方の、子どもについてのアンケートに学童についてどう思うかという質問を、ということですが、こちらにつきましては担当の教育委員会とも協議しまして検討させていただきたいと思います。まだこちらの追加案は、子育て支援課の中で協議した段階ですので、別の課に関わる部分につきましては一旦担当課の方に協議をさせていただいて、決めさせていただきたいと思います。

【会長】

私も個人的にこのアンケートが難しそうに思ったのですが、ただ国の指示というか、国の方で全国的にこのようなアンケートなどをやる場合は、ほぼその項目が決まっ

ているもので、どうしてもこのような形になってしまうような気がします。市がほとんど独自に、好きに実施して良いアンケートであればもっとすっきりしたものもできるかと思います。その辺は皆さんで工夫していけたらと思います。

【委員】

まず一点目、資料1-1の2ページ、調査対象の世帯が書いてありますが、この中には外国人の世帯は含まれるのでしょうか。含まれている場合、日本語を読むのがなかなか難しい方もいらっしゃると思いますが、そういう方のニーズの把握の仕方はどうするのかというお考えをお聞きしたいです。英語等で送るのは、コストも手間もかかるのですが、第3期の計画が令和7年度から令和11年度ということで、この先も外国人の方は増えてくるのではないかと思います。

次に、資料1-4の追加設問の一番下、保護者のメンタルヘルスに関する設問になるのかと思います。この設問がストレスチェックのような内容で「この1か月のあなたの気持ちはどのようでしたか。」という聞き方が、直接子育てに関するものとあまりリンクしていないというか、ふわっとした聞き方で自分が答えることになった時に、どうしてこの設問があるのかなと感じるのではないかと思います。この設問を加えた意図をお聞きしたいのですが、もし付け加えるなら、「子育てをしている時」とか「子どもと関わっている時」にどういう気持ちだったか、という聞き方をしていたければ答えやすいかなと思います。

最後に、今日お配りいただいた追加案、子どものアンケートですが、これは子どもに書いてもらうものを用意していただいてありがたいなと思います。設問の内容が旭市のまちづくりに関するものになっていて、回答してもらった内容がどのように活用されていくのかというのをお聞きしたいです。例えば、旭市の次の総合計画を策定する時に、そういった中にこの子どもたちの意見が盛り込まれたり、反映されたりするお考えがあるのでしょうか。子育て以外のまちづくりの部分で、なにか活用していくような形にさせていただければと思います。

【事務局】

一点目、対象には外国人の方も含まれています。申し訳ありませんが、全て日本語の表記のアンケートとなっております。お話しにあったように、この計画は令和7年度から11年度のものになりまして、確かに外国人のご家庭もかなり増えておりますので、こちらは検討課題とさせていただきます。

次に資料1-4の追加設問についてですが、このような設問を追加させていただくのはいかがでしょうか、という提案となります。お子さんとの関わり、生活全般についての設問を加えさせていただきたいと思います。

追加案につきましては、こども計画やこども大綱の中で、子どもも一市民であり意見を述べてもらう場を設ける、ということで加えさせていただきたいと考えております。回答につきましては、市の総合計画などに反映するという事は検討しております。

せんが、こちらでいただいた回答は報告書にまとめさせていただき、子ども・子育て支援事業計画の中でも、子どもだけに関わらず各担当課の項目がありますので、アンケート調査の中でこのような回答があったということで参考にしていきたいと思っております。

【委員】

資料1-4の追加設問について、こういうものはどうですか、と今回提案いただいたのかなと思うのですか、これは通す事案になるのか、調査票に付けますよということになるのでしょうか。追加するかしないかは、あとで決める形になるのでしょうか。

【事務局】

このような設問を追加するのはいかがでしょうか、という提案になります。この場で皆さんに審議していただくようになりますので、これはふさわしくないということであれば追加しないということになると思います。

【委員】

この項目は、載せるのであればどこに入るのでしょうか。

【事務局】

こちらは、子どもの生活全般、就学前では18番、小学生では15番に加えるようになります。

【事務局】

前回調査でも、お子さんとの生活全般についてお伺いしますという設問につきましては、子どもの生活、いわゆる子どもの貧困の実態を把握しようということで設けられていた設問となります。今回も、この貧困というところをもう少し充実させましょうということで、追加設問ということでご提示させていただいております。こちらを採用するとなれば、就学前では18、小学生では15、設問の並び順については再度事務局で検討させていただきたいと思いますが、同じように入れていくようになります。就学前も小学生も同一の設問ということで、お子さんの年齢対象によってもどのような回答結果が出たのかという見比べができるように考えております。

【委員】

これを入れるかどうか、審議があるということによろしいですね。

【会長】

この会議で、例えばこの質問項目をやる、やめるという意見は必要だと思うのですが、ひとつひとつこの質問は○、×とやっていくのは避けたいと思います。市として

このアンケートでデータを取って、最終的に計画づくりについて市長をトップに行っていくものであります。我々はあくまでも、例えばこの追加設問について委員の7割8割が反対であったということであれば、市長にぜひこの項目はやらないでほしいとか、そういう意見にしたいと思っています。ですからこの会議でひとつずつ、この質問はやりましょう、この質問は削ってください、という決議の取り方は不適切ではないかと思っておりますので、ご理解をお願いいたします。

【事務局】

事務局としては、設問についてご意見があればこの場で言っていただいて、例えばこの追加設問であればこういう理由で入れたほうが良いだろう、入れない方が良いだろうというご意見があれば、あとでの採決というよりは今この場でご意見をいただいて、皆さんでどうしましょうかと決めていただければと思うのですが、いかがでしょうか。

【委員】

この追加設問ですが、保護者の方にはまた設問が増えてしまうということもあるのですが、事務局の説明にありました、子ども計画を今後作っていく上でも、貧困対策という意味でもやはりご回答いただくと後々使える部分があるのではないかと感じるので、個人的には入れていただいて良いのではないかと思います。

【委員】

この設問の中で、一番上の年収に関してのものが少し気になります。子どもを育てるのに、年収が多い少ないで決まることは絶対にはないです。年収が少ないと書かなくてはいけないのか。色々な受け取り方があるので、年収をこんなに細かくチェックしなくてはならないというのが、子どもを育てる、子どものことを考えた時に、必要ないと私は思います。年収があってもなくても、子どもは気持ちできちんと育ちます。多いから、少ないからというのは絶対にはないので、聞く必要があるのかなと疑問には思います。

【委員】

このアンケートで個人は特定されませんよね。そうであれば、今後の統計として、市内の生活状況を把握する上で、少し面倒で触れられたくないような内容ではありますが、無記名ということで安心して回答していただけたらいいなと思います。

【会長】

どちらの意見もあるようですが、全体をどうするか、中に年収についてのご意見もありました。事務局としてどうでしょうか。このまま聞いていても、どちらの意見も出ると思います。例えばこの年収の聞き方でも、もう少しやんわりした聞き方にしたら

どうかとか、そのような方法もあろうかと思います。

【委員】

年収の区分が細かいのではないのでしょうか。

【事務局】

こちらの追加設問ですが、もともと国が実施している子どもの生活実態調査というものがありまして、そちらの設問を参考に追加設問ということで作成しております。国が行っている子どもの生活実態調査につきましては、小学5年生、中学2年生を対象に実施しております。そこで、やはり年収等をお聞きして、子どもの貧困層というところを把握した上で、どういった現状があるかというのを、別の調査ではありませんがそれを今回のこの調査に取り入れることについて、どうでしょうかということで追加設問として今ご提示させていただいています。どこまで同じにするかというところはありますので、例えば年収の区分を変えるとか、どこまで国との調査と整合を取るか、と言ってももともと調査対象区分が違いますので、もう少し検討する余地というか、聞き方というところでは変更ができるのではないかと思います。

あとは、調査項目がもともと多いということがありますので、これがどこまで追加設問を加えていくのか難しいところではあるかなと考えておりますが、その辺は色々ご意見をいただきながら検討を進めて、調査の方を実施できればと思います。基にしているのは国の子どもの生活実態調査で、年収区分もそれをこちらに落とし込んでいますので、どこまで整合を取るかということも検討が必要だと思っています。

【委員】

2番目のお子さんの関わり方についてですが、小学生と就学前と同じ設問で入れ込まれるということですが、この内容が就学前のお子さんに適するのでしょうか。③お子さんが小さいころ絵本の読み聞かせをしていた、という設問については、小学生が対象になるかなと思ひまして、この辺の内容を検討された方が良いと思います。

次の、この1か月間のあなたの気持ちは、という設問ですが、これを唐突に載せられてもという気がします。どういう時に対してという主語がないと感じました。

【事務局】

2番目の設問につきましては、表現を変えて両方に入れるなど、事務局の方で検討させていただきます。

次の設問につきましては、先ほども委員からの意見でもありましたように、お子さんを育てている上で、というような聞き方に変えさせていただきたいと思ひます。

【会長】

追加設問について、他によろしいでしょうか。では、この追加設問に関して、あまりこのような決を取るべきではないと思うのですが、内容はもう一度十分精査していただいて、この追加設問そのものをアンケートに入れるということに賛成の方は挙手をお願いしてもよろしいでしょうか。

(賛成多数)

では、これは入れる方向での意見が多いようですので、内容をわかりやすく精査しまして、このアンケートの中に入れていただきたいと思います。

それと年収の関係ですが、国勢調査等でも収入に関する項目は、良い悪いは別として必ず入ってくるものであります。そういうものがないと、市の施策を執行していくデータとして使えないということもありますので、ベースはそのままにさせていただいて、金額や聞き方等工夫していただけたらと思います。

【委員】

前回このアンケート調査を実施した時の回収率はどのくらいだったのでしょうか。

【事務局】

前回の回収率ですが、就学前児童で配布が2,463世帯のうち1,227世帯で回収率は54.0%です。

小学生で配布が2,274世帯のうち1,178世帯で回収率は47.3%となっております。

【会長】

その他によろしいでしょうか。ないようですので、本日の議題、第3期旭市子ども・子育て支援事業計画にかかるニーズ調査について、市の方では本日委員の皆さんからいただいたご意見、ご指摘を十分精査して次のステップに進んでいただきたいと思います。

調査票の発送までかなりタイトなスケジュールとなっております。来月の12日には郵送して、年内28日には回収となっております。大変だとは思いますが、丁寧に進めていただきたいと思っております。

来年度は、この調査結果を踏まえた第3期計画の案ができてくるとのことですので、市に対して子ども・子育て会議としての意見を述べていくこととなります。よろしくお願いたします。

(2)その他

【事務局】

旭市立保育所再編について

【会長】

ただ今の説明について、何かご質問やご意見はございませんか。ないようですので、その他事務局からありますか。

【事務局】

次の会議開催予定ですが、令和6年2月下旬頃を予定しております。お忙しいところ恐縮ですが、ご出席をよろしくお願いいたします。

【事務局】

先ほどアンケートについてお話しさせていただきましたが、来月の14日から28日を期限として回答をお願いする予定です。一人でも多くの方から回答を頂戴したいと思いますので、お知り合いの方などに、ぜひ提出してくださいと委員の皆様からもお声がけいただければと思います。

ご協力をお願いいたします。

【会長】

事務局から次回の会議予定とアンケート提出の協力についてお話しがありました。

次回の会議予定日については、決まりましたらなるべく早めに各委員さんの方へ、案内をお願いいたします。審議案件の資料につきましても、可能な限り事前に届くと大変よろしいかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

そして、委員さんにおかれましては、アンケート回収率の向上にご協力いただけたらと思います。

それでは、特にご質問等ないようでしたら、議事の方はこれで終了とさせていただきます。

6. 閉会